

京都の近代を象徴する煉瓦造の銀行建築を蘇生

京都文化博物館

京都には日本の「床の間」、その空間に身を置く心が自然に落ち着くといった、まさに日本の文化を象徴する都市である。明治という「みやこ」の権威と機能を奪われた時代にあって先端の都市機能を導入、鮮やかに蘇生を図った「まちなか」の三条通、京都文化博物館はその核として、常に新しい1200年の古都の光芒を鮮明に投げかけている。



京都文化博物館 右が本館 左が別館

【近世からの三条通】

近世の三条通は東海道の西の起点三条大橋を東に、舟運で賑わった高瀬川や、室町東洞院 御池などに隣接し、呉服、両替商、飛脚問屋などが集積する交通と商業の中心であった。近代明治期に入ると、郵便局、電信局、銀行が立地し、情報機能、金融機能が強化され、都心性がさらに強まった。ところが大正中期になると、四条通、烏丸通、そして河原町通が次々と拡張され、銀行や商社が続々と移転し、中枢機能を失うこととなった。しかしそれが幸いしたのがいまの三条通である。和風木造塗込造りの



平安京 朱雀大路南端の羅城門 復元模型



江戸店(えとだな) 持ち京商人 柏屋本店 復元模型



京都は日本映画の拠点 多彩な映像資料展示



別館 旧日本銀行京都支店の広い営業室

商家や町家、煉瓦やコンクリート造の近代洋風建築の多くがそのまま残り、戦後訪れた急速な都市発展の波にも洗われることなく、現存することとなった。そのシンボリックな存在が、旧日本銀行京都支店現京都文化博物館別館である。

【京都府文化懇談会の提言】

1980年(昭55)知事の諮問機関として発足した京都府文化懇談会は、京都の歴史や美術工芸、年中行事、風俗習慣などの都市文化を総合的に紹介する博物館の建設を提言した。その提言をもとに旧日本銀行京

都支店の建物を核とした「京都文化博物館構想」がまとめられ、おりしも迎える平安遷都千二百年記念事業のひとつとして推進されることとなった。

1986年(昭61)に建設に着手し、1988年(昭63)に開館したこの博物館の常設展示は、8世紀までの「百千足る家庭」、「平安楽土万年春」から「武者の世に」「京洛四季」そして現代の「古都飛翔」にいたるまでの京都の歴史の通覧、京都ゆかりの美術工芸品、さらに京都の主要な産業でもある映画の上映や映像資料の展示、そしてタイムリーで多彩な特別展示で構成されている。最大の特徴は、旧日本銀行京都支店の再

生活用である。この建物は、日本銀行本店や東京駅などの設計をした日本の近代建築の祖ともいわれる辰野金吾とその弟子長野宇平治が設計し、1906年(明39)に竣工したもので、明治期を代表する洋風建築として、1969年(昭44)に国の重要文化財に指定された。煉瓦造、スレート・銅板葺、三条通に面し

た外観は左右対称で白い花崗岩を装飾的に配するという19世紀後半のイギリス建築の様式となっている。戦後、同行が河原町に移転後はしばらく(財)古代学協会が運営する平安博物館となっていたが、1986年(昭61)に寄贈を受けた京都府が保全と修理に着手し、営業室などが旧態に戻され、戦時中に金属供出されたシャンデリアやブランケットも、古写真に基づいて忠実に復元された。広い営業室はコンサートや展覧会場ともなり、別棟の金庫棟は珈琲サロンとして活用されている。



三条通と高倉通の角に重厚な姿を見せる

【まちなか博物館へ】

従来の博物館や美術館は日常的な都市空間ではなく、緑に包まれた公園などに設置されている例が多いが、文化施設こそ人々の日常生活の中心にあるべきというコンセプトから、京都文化博物館は三条通という「まちなか」に開館した。それは京都の街そのものが博物館であるという1200年の古都の特性の反映でもあり、博物館を学問や芸術の専門家だけでなく、あらゆる領域の人々が集まり、語り、力を合わせて新しい京の文化を創り出す場、すなわち「威容を誇る殿堂」「奥まったお座敷」ではなく、まちなかに常に開かれた「京の窓」をめざしているからでもある。

このまちなか博物館の具体化が本館1階に設けられた「ろうじ店舗」である。江戸時代末期の京のまちなみの表構えを仕舞屋格子、堺戸格子、酒屋格子、糸屋格子などの京格子とばったり床机(折りたたみ可能な軒下の床机)をあしらって原寸大で再現した。いわば格子の博物館ともなっている。この「ろうじ店舗」は、博物館のなかで京の町家のようすを垣間みることができただけでなく京料理やショッピングが楽しめるユークレ魅力的な空間を生み出した。なお、この京都文化博物館別館は2005年にリニューアルされ、三条

通入り口を開放し、入館客を飛躍的に増やしている。

2006年、この旧日本銀行京都支店は、築100周年を迎え、さまざまな記念催しが企画された。祇園祭



「ろうじ店舗」老舗の料亭 軒先にはばったり床机 本館1階



京都市の界わい景観建造物指定の旅館と漆器店



大正期の重厚な建築 旧不動貯蓄銀行(現SACRAビル)



セットバックし 緑も加えた ゆとりのまちなみ空間



壁面を保全 内部を一新 旧京都中央郵便局(現中京郵便局)



外観を復元した 旧第一銀行(現みずほ銀行京都支店)

【賑わってきた三条通】

の山鉾の飾りを展示した「祇園祭懸装品展」、「貨幣の歴史と近代京都100年展」、「近代建築写真展」、「記念コンサート」などが注目され、それ以後も特別展として「北斎と広重展」、「マリア・テレジアとシエーンブルン宮殿展」、「始皇帝と彩色兵馬俑展」など、世界と日本、そして京都という、広い視点からとらえた、独自でタイムリーな企画が、従来の博物館という領域を超えてその存在感を高めている。

【歴史都市京都創生】

京都市では1997年(平9)、この三条通を「界わい景観整備地区」に指定、7件の界わい景観建造物を指定したほか、地元市民と協働して通の両側を石畳舗装とし、段差のない歩道機能を持たせ、さらに道標サインも埋め込んだ。この通の特色ある景観の保全と創出を図ろうとするこれら市の施策が、三条通の賑わい復活の大きな要因となっている。

京都の歴史的景観や伝統文化を守り伝えるために、京都市はさまざまな施策を先進的にすすめてきたが、さらなる危機感とともに2003年(平15)、梅原猛氏をはじめとする有識者による、国家戦略として取り組むべきとの「歴史都市京都創生策」の提言を受け、京都創生推進室を設置し、伝統文化の継承をはじめ、自然景観、歴史的町並み景観、市街地景観の保全・再生について具体に取り組んでいる。なかでも注目されるのは、建築物の高さ規制の見直しで、都心の河原町烏丸 堀川 御池 四条 五条の6本の幹線沿道の田の字地区は45を31を、それに囲まれた職住共存地区は31を



石畳舗装となった歩道と埋め込まれたサイン

京都市道路元標

15に、という規制方針を打ち出したことである。あわせて歴史的都心地区にふさわしい中高層建築物をテーマに「新・京デサイン」の提案募集がはじまった。また懸案となっている京町家の保全再生については、景観重要建築物の指定や京町家まちづくりファンドによる支援を行い、点から線へ、線から面へと積極的に展開されつつある。さまざまな困難が予想されるものの、三条通の歴史的景観がこれらの施策によって、歴史都市京都の近代を象徴する魅力ある街として、いつそう磨かれていくことが期待されている。